

# 平成26年度 学校経営計画票

## 練馬区立開進第一小学校

学校教育目標：

一ともに生きるー・かしこい子・やさしい子・たくましい子

目指す学校像(ビジョン)

◎学校像

(1)児童にとって明るく楽しい学校

(2)教職員が指導に喜びをもてる学校

(3)保護者や地域から信頼できる学校

(4)児童が安全で安心して生活できる学校

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	評価指標	評価基準	成果指標
学力の定着・向上	基礎・基本の学力の定着を図る。	わかる授業を目指す。	分かる・楽しい授業に努める。(言語活動の充実、研究「読むことを通して」を大切にして) ※児童アンケートでチェック	4 実践授業・授業交流を3回以上行う。 3 実践授業・授業交流を2回以上行う。 2 実践授業・授業交流を1回以上行う。 1 実践授業・授業交流はできなかったこと。	4 授業がわかる児童が95%以上だった。 3 授業がわかる児童が85%以上だった。 2 授業がわかる児童が75%以上だった。 1 授業がわかる児童が75%未満だった。		
			朝の読書の定着を図る。(席を離れず、誰もしやべることなく書物に浸る)	4 朝読書指導ができたのが90%以上。 3 朝読書指導ができたのが80%以上。 2 朝読書指導ができたのが70%以上。 1 朝読書指導ができたのが70%未満。	4 読書の楽しさがわかる児童が90%以上だった。 3 読書の楽しさがわかる児童が80%以上だった。 2 読書の楽しさがわかる児童が70%以上だった。 1 読書の楽しさがわかる児童が70%未満だった。		
		授業規律の確立を図る。	チャイムと同時に授業開始を心掛ける(児童アンケートでチェック)	4 チャイムと同時に授業開始できたのが90%以上。 3 チャイムと同時に授業開始できたのが80%以上。 2 チャイムと同時に授業開始できたのが70%以上。 1 チャイムと同時に授業開始できたのが70%未満。	4 チャイム着席が守れた児童が90%以上だった。 3 チャイム着席が守れた児童が80%以上だった。 2 チャイム着席が守れた児童が70%以上だった。 1 チャイム着席が守れた児童が70%未満だった。		
			ジドウ ココロ セマ キョウザイ タンキョウ 児童の心に迫る教材を探求したり作成したりする。	4 感動する教材が85%以上。 3 感動する教材が75%以上。 2 感動する教材が65%以上。 1 感動する教材が65%未満。	4 道徳は役に立ったと思う児童が85%以上だった。 3 道徳は役に立ったと思う児童が75%以上だった。 2 道徳は役に立ったと思う児童が65%以上だった。 1 道徳は役に立ったと思う児童が65%未満だった。		
			いじめやイタズラなどの暴言・暴力などの根絶についての取り組みをする。	4 学年取り組みを3回以上は実施。 3 学年取り組みを2回以上は実施。 2 学年取り組みを1回以上は実施。 1 学年取り組みを実施しなかったこと。	4 いじめやイタズラなどの違反をしない児童が95%以上だった。 3 いじめやイタズラなどの違反をしない児童が85%以上だった。 2 いじめやイタズラなどの違反をしない児童が75%以上だった。 1 いじめやイタズラなどの違反をしない児童が75%未満だった。		
	豊かな人間性の育成	一人ひとりを大切にする生活指導をする。	教育相談の充実を図る。	4 全ての児童に3回は相談機会を設けること。 3 全ての児童に2回は相談機会を設けること。 2 全ての児童に1回は相談機会を設けること。 1 全ての児童に相談機会を設けることができなかつたこと。	4 教育相談を有意義と感じる児童が85%以上いた。 3 教育相談を有意義と感じる児童が75%以上いた。 2 教育相談を有意義と感じる児童が65%以上いた。 1 教育相談を有意義と感じる児童が65%未満だった。		
			課題のある児童や不登校児童に組織的な取り組みをする。(管理職・スクールカウンセラー・心のふれあい相談員・養護教諭・生活指導部等)	4 教職員や関係者等と協力し組織的な取り組みができたこと。 3 教職員や関係者等と協力し組織的な取り組みがほぼできたこと。 2 教職員や関係者等と協力し組織的な取り組みがあまりできなかつたこと。 1 教職員や関係者等と協力し組織的な取り組みができなかつたこと。	4 不登校気味の児童が90%減少した。 3 不登校気味の児童が80%減少した 2 不登校気味の児童が70%減少した 1 不登校気味の児童が減少しなかつた。		
			あいさつをよくする児童を育成する。	4 あいさつ運動に3回以上参加すること。 3 あいさつ運動に2回以上参加すること。 2 あいさつ運動に1回以上参加すること。 1 あいさつ運動に参加できなかつたこと。	4 あいさつをよくするようになったと意識する児童が90%以上だった。 3 あいさつをよくするようになったと意識する児童が80%以上だった。 2 あいさつをよくするようになったと意識する児童が70%以上だった。 1 あいさつをよくするようになったと意識する児童が70%未満だった。		
		地域と連携を深め、地域に根付いた教育の推進。	地域人材を活用し、学習の活性化を図る。	4 全学年が地域の人材バンクを活用すること。 3 5学年が地域の人材バンクを活用すること。 2 4学年が地域の人材バンクを活用すること。 1 3学年が地域の人材バンクを活用すること。	4 地域に対して感謝の気持ちが高まった児童が80%以上だった。 3 地域に対して感謝の気持ちが高まった児童が60%以上だった。 2 地域に対して感謝の気持ちが高まった児童が50%以上だった。 1 地域に対して感謝の気持ちが高まった児童が50%未満だった。		
			地域と連携した幅広い教育を進める。	4 学区の安全を見直す取り組みを年4回以上計画し実践すること。 3 学区の安全を見直す取り組みを年3回以上計画し実践すること。 2 学区の安全を見直す取り組みを年2回以上計画し実践すること。 1 学区の安全を見直す取り組みを年1回以上計画し実践すること。	4 安全な登下校ができるようになった児童が90%以上だった。 3 安全な登下校ができるようになった児童が80%以上だった。 2 安全な登下校ができるようになった児童が70%以上だった。 1 安全な登下校ができるようになった児童が70%未満だった。		